

廃食物油を燃料にしてコスト削減

旭川市・(株)東和

実績を上げる 東和の製品

空調工事とそのメンテナンスを主とする東和は、使用済み天ぷら油（廃食物油）を燃料とするハイブリット・ハウス

ヒータと温水ボイラーの販売・施工を行っている。同社がこれまでに設備を提供した企業の4件は「CO₂排出権国内クレジット制度」の認定を受けた。このほか、2011年度は2件で「温室効果ガス排出削減運動型中小企業グリーン投資促進事業」の採択を受けた。道は、独自の政策として、道内の法人・任意団体及び市町村で構成された共

同体などを対象とするエネルギー「一村一炭素おとし事業」制度により低炭素化の取り組みを支援しており、同社はこの制度にも応募を予定している。

同社ハウスヒータと温水ボイラーは、道内にとどまらず、新潟や静岡など道外でも実績を上げていく。今期は、日本企業が中国を舞台に行うハウス事業への導入も予定されている。

同社製品で コスト削減を図る

東日本大震災の影響により、観光客の減少が危ぶまれるホテル業界は、固定費の負担が経営を圧

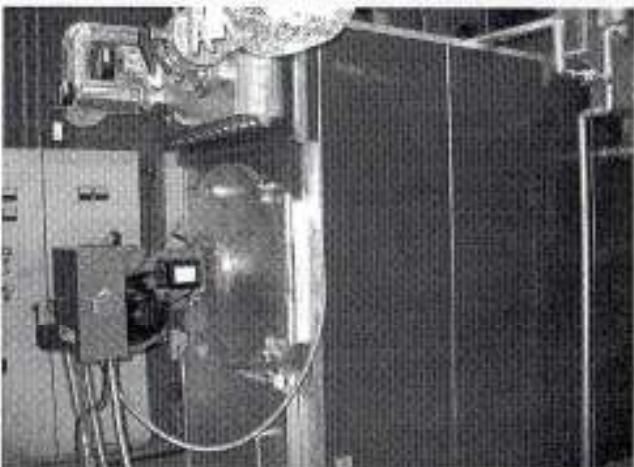
迫しかねない。小樽市で小樽朝里クラッセホテルを運営する㈱アンピックス（札幌市中央区）では、㈱東和の技術を導入し、コスト削減を図った。㈱アンピックスは、老朽化した吸収式冷温水器に替えて、鉱物系廃油と廃食油を適量混合して燃焼させるバーナー搭載の温水ボイラーを導入。ヒートポンプチャラーと組み合わせることで、定期的な化石燃料の使用量削減を実現し、燃料費の大幅削減に成功した。㈱アンピックスの吉田室長は、「東和の技術導入により、コスト削減を命題とする、この難局を乗り切ることができそうだ」と話す。

㈱東和は、今後のエネルギー循環対策として、使わなくなった農地で菜の花・大豆など搾油可能な植物の栽培で、新たな雇用の創出と、荒れた農地の回復という一石二鳥の効果も期待している。

「何も足さない、何も引かない、新たな廃棄物は一切出さない」を信念とする同社。この取り組みは、化石燃料の使用量削減、ほかの燃料への転換などを考えるエネルギー問題解決のきっかけとなる可能性を秘めている。

取材協力

㈱東和、北海道旭川市曙北3条7の3の3、0166・24・1416



エネルギー問題を解決できるのか注目



東和の温水ボイラーを導入した小樽朝里クラッセホテル